

大阪港湾局との「協議」に参加

昨日 4 日午後、市民団体と大阪港湾局との「団体協議」に参加した。天気がいいので、咲洲に早めに行って、久しぶりに夢洲を上から眺めた。手前のコンテナターミナルでは、大きなタンカーから多くの荷物が降ろされていた。大阪港で最大の港湾機能を果たしている夢洲のいまを実感できた。夢洲は「負の遺産」などではなく、経済活動の拠点であり、万博や IR カジノの影響が懸念される。



写真下に、2025 年の大阪・関西万博の開催予定地が見える。会場イメージ図も載せておく。左上に海面が残っているが、このあたりが「ウォーター・ワールド」。



その右が「パビリオン・ワールド」「グリーン・ワールド」なのだろう。「グリーン・ワールド」が協議で問題になる。



協議のなかで注目すべき点などを簡単に紹介しよう。

・昨年 9 月に「大阪港埋立事業の長期収支見込み」が出されたが、今年度は IR カジノ計画の遅れによりまだ提出できていない。港営事業会計の赤字が懸念されるが、その際は一般会計など大阪市全体で対処するという。夢洲開発のツケが大阪市民に回ってくる。万博用地には土地賃貸料はかからないのかと質問すると、大阪市として「無償」貸与を意思決定したという。いつ、どこで、だれが意思決定したのかと追及すると、後日回答するとのこと。



・地下鉄の夢洲への延伸について。万博の主要アクセスというが、IR カジノが 2000 年代後半に開業したとしても、乗客は万博のあと数年間ほとんど見込めない。大阪港トランスポートシステム(OTS)や大阪メトロの経営を圧迫するのではないか。大阪港湾局はブレーキ役を果たすべきでないかと問うと、夢洲まちづくり構想に沿って事業を進める。たとえ最初は赤字でも、鉄道をひくことで相乗効果が生まれ、収支も改善されてくるだろう、などと楽観的な見通しに終始していた。

・夢洲の「1 区」と呼ばれる地区は、一般廃棄物で埋め立てられた。有害物質も確認されており、港湾局や環境局も確認しているはずだ。万博の「会場配置計画」を見ると、そこはグリーン・ワールドとして、交通ターミナルやエントランス広場、屋外イベント広場などが設置されることになっている。博覧会協会も「1 区」の危険性を認識しているはずだ。これで安全・安心な万博が開催できるのか、港湾局にも対処を求めたい。

(2021 年 11 月 5 日)